

グラウンドの芝生化は長年の懸案？

● Jリーグ発足時からの話題でもあるのですね！

先日、夏炉冬扇 4830号にて「校長も無理難題に挑戦する浦高！」で校庭の芝生化について書いたところ、多くの同窓生からメールをいただきました。

◇ ◇

■ 芝生化は大いに賛成！

学生たちの安全を守る活動に対しては全面的に応援します。小島校長のお話も楽しみにしています。

【春日部地区浦高会 Y氏】

■ 環境を整えることが大切！

環境が変わると、運動部は俄然強くなります。水泳部は屋根を付けてもらったおかげで、毎年、インターハイ出場は当たり前になり、高校新記録まで樹立するようになりました。グラウンドの芝生化は、是非とも必要ですよ。【同窓会常任理事 N氏】

■ 人工芝化については疑問？

校庭の芝生化については賛成ですが、人工芝が河川汚染、海洋汚染の原因になっているという報道があったと記憶しています。そうしたことも視野に入れてさまざまな分野からの知恵を集めて環境に優しく、生徒たちにも優しい環境づくりを切望します。

【春日部地区浦高会 O氏】

◇ ◇

こうした意見を寄せていただけるのは有り難いことです。もう一つ、さきたま出版会の星野様から。

◇ ◇

香田様、猛暑お見舞い申し上げます。喫茶去319号で校長やプロジェクトの話、嬉しく拝読しました。小社で1993年に出版した轡田隆史著『キックオフの笛が鳴る～サッカーの歩みと魅力～』を思い出しました。「芝生」のエピソードです。星野和央



◇ ◇

とのコメントと轡田隆史様の本の一部をファックスでいただきました。

◇ ◇

■ 轡田隆史 (くつわだ たかふみ、1936年3月-) は、日本のジャーナリスト、サッカー選手、元朝日新聞論説委員、日本ペンクラブ正会員。埼玉師範附属中学校1年からサッカーを始め、埼玉県立浦和高等学校、早稲田大学政治経済学部へ進学後もサッカー選手としてプレーした。【ウィキペディアより抜粋】

◇ ◇

いただいた一節には、轡田様が早大サッカー部で共にプレーしたJリーグ初代チェアマンの川淵二郎さんとの思い出やプロサッカーを育てるために子ど

もや身体障がい者もサッカーを楽しめる広い裾野づくりの大切さが綴られており、その後に「芝生」に関する次のような記述があります。

◇ ◇

イギリスに素晴らしい芝生を育てる名人の地主がいる。この地主に、アメリカのある富豪が言った。「どうしたらこういう完全なみどりいろの、ぎっしり目のつんだ。非のうちどころのない、びろうどのようにやわらかな、むらのない、みずみずしい、いつもかわらない、かんたんに言うのですな、つまり、おたくの庭のようなこういうイギリス芝が、どうしたらつくられるか、おしえてくださったら、お望みの額をいくらでもお払いますがあ」▼するとイギリスの地主はこう答えた。「ごくかんたんです。土をよく深く耕すんです。水はけのいい、肥えた土地でなくちゃいけません。酸性の土ではいけません。あんまり肥料気がありすぎてもいけません。重くてもいけないし、やせていてもいけません。それから、その土をテーブルのように平らにして、芝の種をまいて、ローラーでいねいに土をおさえつけるんです。そして毎日水をやるんです。芝がはえてきたら、毎週、草刈り機で刈って、刈り取った芝をホウキで掃いて、ローラーで芝をおさえるんです。毎日水をかけて湿らせるんです。スプリンクラーで灌水するなり、スプレーするなりするんです。それを300年お続けになるんです」▼ごく平凡な、当たり前前のことを300年！とは、すごい。もちろんこれは、いささか誇張されたジョークであるにしても、イギリスの美しい芝生を見ていると、なるほどそうかも知れないなあ、と思えてくる。プロサッカーも、この芝生と同じなのだ。ごく平凡な、当たり前前のことを、じっくりと腰をすえて続けてゆくしかないのである。これから先、何年かかるかわからないけれども、始めることから、すべては始まる。シュート無ければ、ゴール無し。▼【中略】。〔東大教授で国際審判員であった浅見俊雄さんとの話〕「サッカーのプレーと芝生の関係、いろいろあるでしょう？」「芝生がいいと技術が伸びる。日本選手の欠点の一つは、膝が固いこと。土の上で練習したり、芝生の場合も、ふわっとしていないで固いから、膝がどうしても固くなってしまう。転がるのがいやで、どうしても、つっぱってしまうせいだ」▼確かに、ボールを扱う場合、土の上と芝生の上とは全然感触が違ってくる。日本では芝生のような基本的なところに、なかなか金をかけようしない。すぐに、泥まみれでやるほうが敢闘精神が養える！なんていう方向に話がいつてしまう。欧米では、土のグラウンドであっても、ホコリが立ちにくい、デコボコになりにくい土のけんきゅうなどがしっかり行われている。

◇ ◇

校庭の芝生化、大いに議論して実現したいものですね。